

登録作業療法士を目指す 解説書

ver.1

日本作業療法士協会

作成 2025/04/22

【目次】

I. はじめに	2
II. 登録作業療法士を目指す	2
III. 研修中 OT が登録作業療法士を目指す標準的行程	3
1.前期研修	3
2.後期研修	3
3.MTDLP 基礎研修	4
4.厚生労働量指定臨床実習指導者講習会、または理学療法士 作業療法士言語聴覚士養成施設教員等講習会	4
IV. 実地経験	5
1.実地経験の構成	5
2.実地経験を構成する 3 者とその役割	6
3.実地経験で使用するツール	7
4.厚生労働量指定臨床実習指導者講習会、または理学療法士 作業療法士言語聴覚士養成施設教員等講習会	8
V. 各種研修・講習の管理および申請手続き	10
1.前期研修	10
2.後期研修	10
3.MTDLP 基礎研修	10
4.厚生労働量指定臨床実習指導者講習会、または理学療法士 作業療法士言語聴覚士養成施設教員等講習会	10
5.登録作業療法士の申請手続き	10
VI. 登録作業療法士の更新要件	11
VII. 研修中 OT が、認定作業療法士、専門作業療法士を目指す	11

I. はじめに

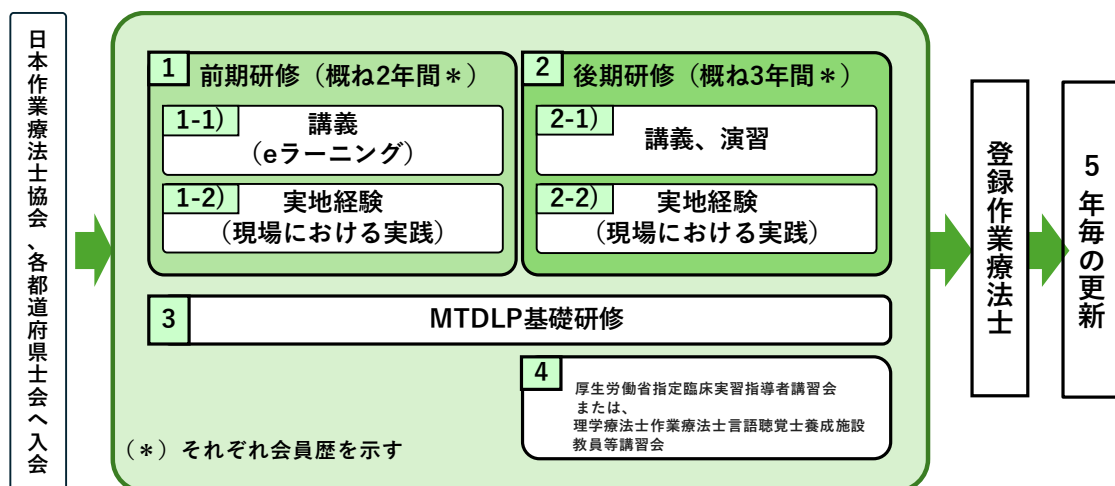
この解説書では、免許を取得した作業療法士が、日本作業療法士協会（以下 OT 協会）の生涯学修制度に取り組み、登録作業療法士となるための手続きを示します。

なお、登録作業療法士を目指して研修・研鑽を遂行している作業療法士を、「**研修中 OT**」と呼びます。

II. 登録作業療法士を目指す

登録作業療法士となるためには、日本作業療法士協会と各都道府県作業療法士会に入会し、以下の 4 つの研修・講習を修了し、OT 協会会員歴満 5 年以上を満たすことが必要です（図 1）。

1. 前期研修の修了（最短で OT 協会会員歴 2 年間）
2. 後期研修の修了（最短で OT 協会会員歴 3 年間）
3. MTDLP 基礎研修の修了
4. 厚生労働省指定臨床実習指導者講習会、または理学療法士作業療法士言語聴覚士養成施設教員等講習会の修了



＊ 前期研修の2年間、後期研修の3年間とは、OT協会の会員歴がそれぞれ通算2年、通算3年をいう
＊ OT協会の会員歴は、入会月に関わらず、入会した年度を会員歴1年とカウントする

図 1 登録作業療法士制度 概要

Ⅲ. 研修中 OT が登録作業療法士を目指す標準的行程

図2に、研修中 OT が OT 協会入会から通算 5 年の会員歴で登録作業療法士となる標準的行程を示します。

			1. 前期研修		2. 後期研修		
			OT協会員歴 1年目	OT協会員歴 2年目	OT協会員歴 3年目	OT協会員歴 4年目	OT協会員歴 5年目
			前期研修 1年目	前期研修 2年目	後期研修 1年目	後期研修 2年目	後期研修 3年目
講義			1-1) 講義 (eラーニング)				
講義・演習					2-1) (新) 現職者共通研修、(新) 現職者選択研修		
			1-2)		2-2)		
実地経験	ア	自施「内」 実地経験					
	イ	自施設「外」 研鑽経験	研鑽対象の学会・研修会と回数に必須要件あり				
	*						
3. MTDLP 基礎研修							
4. 厚生労働省指定臨床実習指導者講習会 または 理学療法士作業療法士言語聴覚士養成施設教員等講習会							

図2 研修中 OT が登録作業療法士を目指す標準的 行程

1. 前期研修

- (1) **1-1)講義（eラーニング）**を受講し、**1-2)実地経験**を進めます。
- (2) **1-1)講義（eラーニング）**は、OT協会のLMS¹を使用して受講します。
講義の詳細と受講方法は、OT協会のホームページから確認してください。
OT協会員は、無料で受講できます。
- (3) **1-2)実地経験**は、この資料のⅣ. **実地経験**で説明します。
- (4) 前期研修は、最短でOT協会員歴通算2年で修了することができます。

2. 後期研修

- (1) 2-1)講義・演習（新現職者共通研修、新現職者選択研修）²を受講しつつ、
2-2)実地経験を進めます。

¹ LMS：ラーニングマネジメントシステム

²（注）：2-1)講義・演習（新現職者共通研修、新現職者選択研修）は、2027 年度以降に開講します。

- (2) **2-1)講義・演習（新現職者共通研修、新現職者選択研修）**は、前期研修がすべて修了した後、会員歴3年目以降に受講します。

講義・演習の詳細と受講方法は、OT協会のホームページ、各都道府県作業療法士会のホームページから確認してください。

- (3) **2-2)実地経験**は、この資料の**Ⅳ. 実地経験**で説明します。

- (4) 後期研修は、最短でOT協会員歴通算3年で修了することができます。

3. MTDLP 基礎研修

- (1) 前期研修または後期研修を進めている期間（5年）のうちに受講します。

- (2) 研修の詳細と受講方法は、各都道府県作業療法士会のホームページから確認してください。

4. 厚生労働省指定臨床実習指導者講習会、または理学療法士作業療法士言語聴覚士養成施設教員等講習会

- (1) これらの講習会は、それぞれ決められた実務経験を満たさなければ受講できません。

- (2) 各講習会の詳細と受講方法は、各講習会の開催案内を確認してください。

IV. 実地経験

1. 実地経験の構成

登録作業療法士制度における実地経験とは、現場における作業療法士としての経験そのものを指します。

登録作業療法士制度における実地経験は、自施設「内」実地経験と自施設「外」研鑽経験で構成します（図3）。

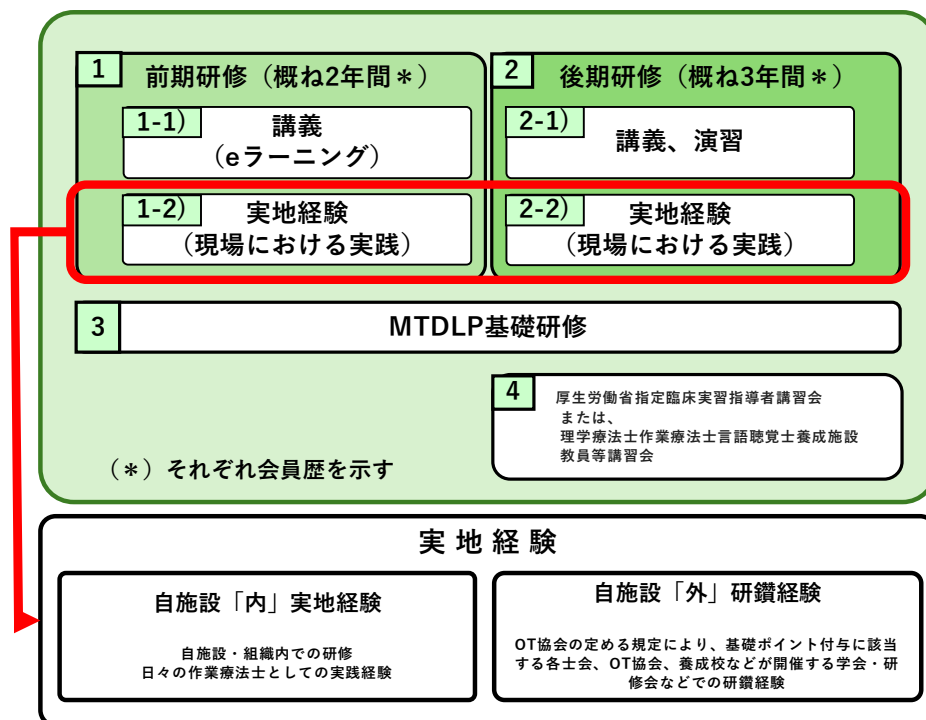


図3 実地経験の構成

- (1) 自施設「内」実地経験とは、自施設・組織内での研修や上位者の助言・指導・確認を得て行う日々の実践経験です。
- (2) 自施設「外」研鑽経験とは、OT協会の規定により基礎研修ポイント付与に該当する学会・研修会など³での研鑽経験です。
- (3) 前期研修（概ね2年間）と後期研修（概ね3年間）の計5年の研修中、自施設「内」実地経験に加え、様々な学会や研修会などに参加し、新しい知識・技術の修得に励んで下さい。

³ 基礎ポイント付与に該当する学会、研修会は、OT協会ホームページの基礎ポイントについておよびSIG等認定一覧を確認してください。

なお、前期研修・実地経験では、自施設「外」研鑽経験の対象となる学会・研修会と回数に「必須要件」があります⁴。

2. 実地経験を構成する3者とその役割

実地経験は、研修中OT、上位者OT、前期研修・実地経験修了確認者の3者が構成します。それぞれの役割を表1に示します。また、3者の関係を図4に示します。

なお、3者のうち、前期研修・実地経験修了確認者は、表1の要件を満たしている者でなければなりません。

表1 実地経験を構成する3者の役割と前期研修・実地経験修了確認者の要件

実地経験を構成する者		役割
A	研修中OT (前期研修・後期研修中のOT)	- 主体的に必要な指導・助言・確認を得て、実地経験の目標を設定 - 主体的に必要な指導・助言・確認を得て、作業療法実践能力を段階的に修得 - 実地経験の目標と進捗を自己管理
B	上位者OT (各施設・組織の管理的立場のOTや先輩OTなど)	- 研修中OTの実地経験の目標について指導・助言・確認し、合意 - 研修中のOTに適切な指導・助言・確認を行い、作業療法実践能力の段階的な修得を支援 - 研修中OTの実地経験の進捗、目標到達を確認、自己管理の促し
C	前期研修・実地経験修了確認者	研修中OTとともに前期研修・実地経験の修了を確認する

↓

C 前期研修・実地経験修了確認者の要件	
原則要件	1. 研修中のOTと同じ施設・組織に属するOT協会員である者 2. 登録作業療法士である者
暫定要件 *2030年3月末まで	1. 研修中のOTと同じ施設・組織に属するOT協会員である者 2. 以下の講習会、研修会のいずれかを修了し、認定証を提出できる者 - 厚生労働省指定の臨床実習指導者講習会 - 理学療法士作業療法士言語聴覚士養成施設教員等講習会 - OT協会による臨床実習指導者中級・上級研修会

⁴ 詳細は別紙実地経験マニュアルを確認してください。

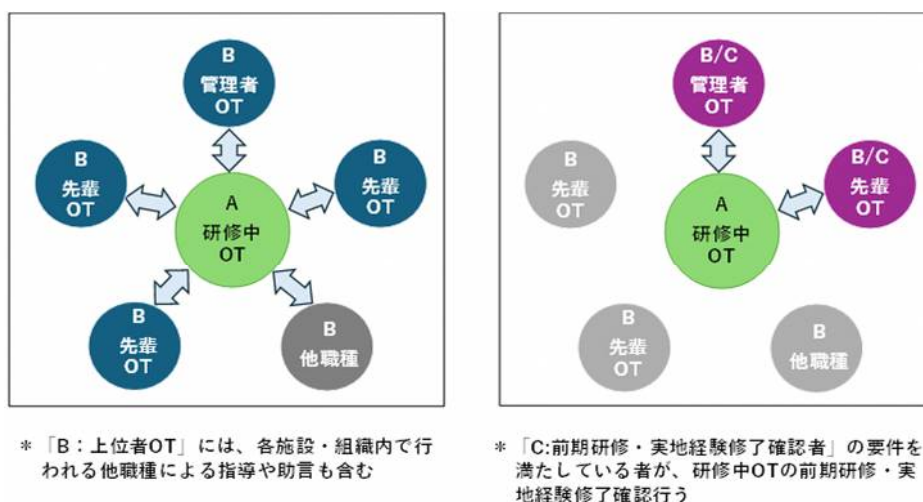


図4 実地経験を構成する3者の関係

3. 実地経験で使用するツール

実地経験を計画的、段階的に進めるため、OT 協会版の3種のツールを作成しました。その使用目的を表2に示します。

3つのツールは、OT 協会のホームページからダウンロードして使用してください。

表2 実地経験で使用する OT 協会版ツールと使用目的

【OT協会版ツール】		使用目的
①	実地経験 自己チェックリスト	研修中OTが実地経験の進捗を自己管理するため、実施可能となった事項を自己チェックする
②	実地経験 目標自己管理シート	研修中OTが実地経験において修得すべき知識、技術、態度、研鑽経験などの目標を具体的、段階的に設定し、進捗を自己管理する
③	前期研修 実地経験 修了確認表	研修中OTが、前期研修・実地経験を修了したことを実地経験修了確認者とともに確認する

- ◆ ①、②は【OT協会版】でなく、【自施設版】の新人教育ツールなどを使用していただくことでよい
- ◆ ③は、研修中OT全員が共通に使用する

なお、OT 協会版のツール①と②に該当するものが、自施設にある場合は、OT 協会版に替えて、自施設版のツールを使用してください。

ただし、③前期研修 実地経験修了確認表は、すべての研修中 OT が前期の実地経験修了確認のため共通に使用します（自施設に実地経験修了がない場合を除く：詳細は、「実地研修マニュアル」を参照）。

*これ以降は、OT 協会版のツール①、②、③を使用して実地経験を進める場合を説明します。

OT 協会版①、②に該当する「自施設版」ツールを使用する場合は、該当箇所を自施設版に読み替えて読み進めてください。

4. 実地経験の進め方（概要）⁵

5 年間（前期 2 年、後期 3 年）の実地経験の進め方（概要）を示します（図 5）。

（A）研修中 OT

（B）上位者 OT（管理者や先輩 OT など）から、**主体的**に必要な指導・助言・確認を得て、**計画的、段階的**に実地経験を進め、標準的な作業療法実践能力を修得します。

この時、①実地経験自己チェックリストおよび②実地経験目標自己管理シートを用いて、実地経験の進捗と実践能力の獲得を自己チェック・自己管理します。

（B）上位者 OT

（A）研修中 OT に適切な指導・助言・確認を行い、**主体的、計画的**な実地経験の遂行と**段階的**な実践能力の獲得を支援します。

支援は、**段階的・漸減的**に行い、（A）研修中 OT が標準的な作業療法を独力で実践できる能力の修得を促します。

⁵ 実地経験の、より具体的な進め方については、別紙「実地経験マニュアル」をご覧ください。

(C) 前期研修・実地経験修了確認者

③実地経験修了確認表を用い、(A) 研修中 OT の前期研修・実地経験修了 (OT のクリニカルラダーレベル I 到達) を確認します。

後期研修・実地経験の修了を確認する必要はありません。

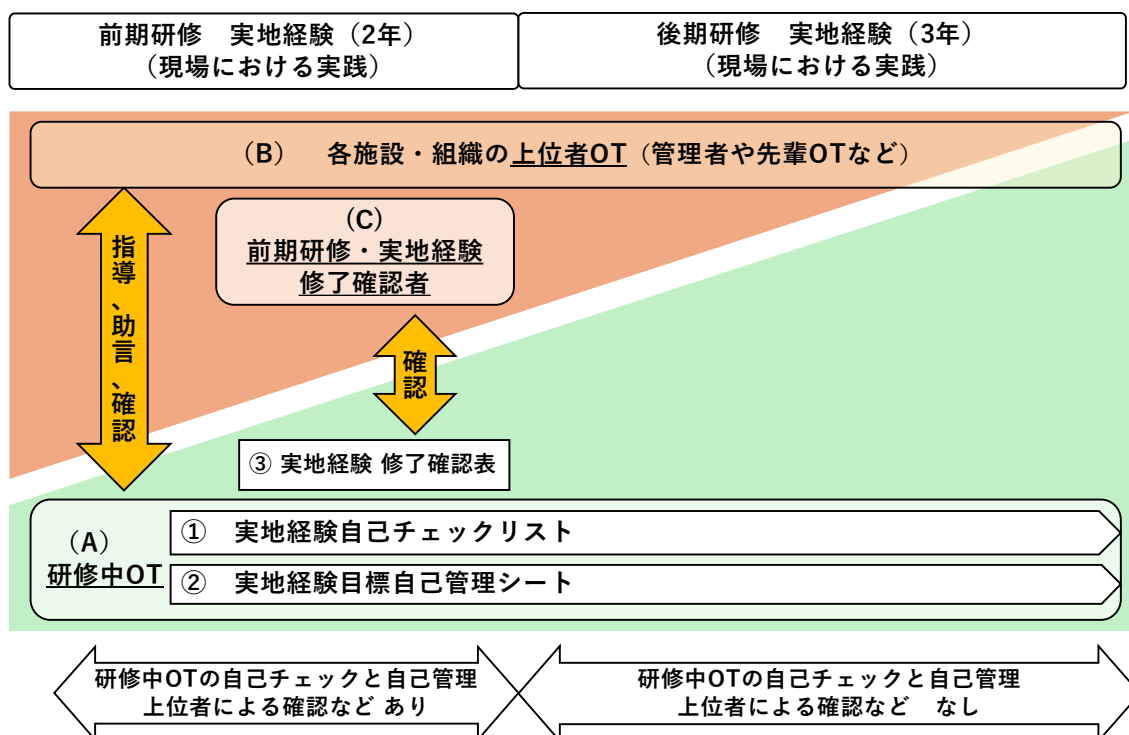


図5 5年間（前期2年、後期3年）の実地経験の進め方（概要）

V. 各種研修・講習の管理および申請手続き

1. 前期研修

- (1) 講義（eラーニング）の受講と修了は OT 協会の LMS で管理します。
- (2) 前期研修・実地経験の修了を証明する書類は、OT 協会の LMS を使用して提出してください。
- (3) 前期研修・実地経験の自施設「外」研鑽経験（必須要件）を証明する書類は OT 協会の会員ポータルサイトから取得してください。

2. 後期研修

- (1) 講義・演習（新現職者共通研修、新現職者選択研修）は、OT 協会の会員ポータルサイトで管理します。

3. MTDLP 基礎研修

- (1) 研修会受講後に、OT 協会の会員ポータルサイトに受講年月日が記載されます。

4. 厚生労働省指定臨床実習指導者講習会、または理学療法士作業療法士言語聴覚士養成施設教員等講習会

- (1) OT 協会主催（各都道府県作業療法士会開催）厚生労働省指定臨床実習指導者講習会の受講履修は OT 協会の会員ポータルサイトに受講年月日が記載されます。他の講習会を受講した場合は、会員ポータルサイトには記載されません。

5. 登録作業療法士の申請手続き

登録作業療法士となるための要件である研修と講習を終えた後は、OT 協会のホームページに示される案内にしたがって申請手続きを行ってください。

VI. 登録作業療法士の更新要件

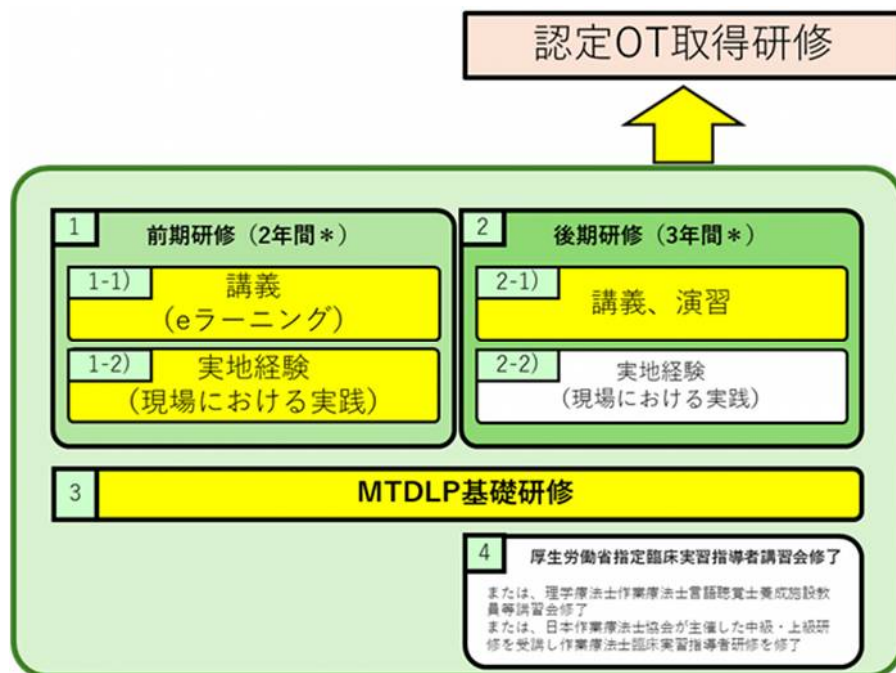
登録作業療法士となった者は、5年毎に更新する必要があります。その更新要件は、5年間に50基礎研修ポイント⁶以上取得することです。

VII. 研修中 OT が、認定作業療法士、専門作業療法士を目指す

研修中 OT は、前期研修、後期研修中から、認定 OT や専門 OT を目指して、研修を受講することが可能です。

【認定 OT を目指す】（図 6）

2025 年度以降に OT 協会に入会した研修中 OT は、以下の研修（図 6 中の黄色部分）を修了すれば認定 OT 取得研修を受講することができます。



⁶（*）基礎ポイント付与に該当する学会、研修会などの情報は、協会ホームページの生涯教育・基礎ポイントについておよび SIG 等認定一覧から、確認してください。

【専門 OT を目指す】

研修中 OT は、OT 協会に入会すれば、初年度から各専門分野の専門取得研修を受講することが可能です。

ただし、専門分野ごとに受講条件が異なる場合があるため、OT 協会ホームページ・専門作業療法士制度を確認してください。

作業療法士の皆様が、OT 協会の生涯学修制度
に取り組み、登録作業療法士として活躍される
ことを期待しています。

～日本作業療法士協会～